

2022年度日本雪氷学会北信越支部大沼賞 受賞

雪氷防災研究部門 伊藤 陽一

受賞題目：雪崩の内部構造とダイナミクス解明に関する研究への貢献



雪氷防災研究部門の伊藤陽一主幹研究員が、2022年度日本雪氷学会北信越支部大沼賞を受賞しました。大沼賞は、長年にわたる観測データの集録など、雪氷に関する地道な貢献を行ったもの、もしくは雪氷研究に関して斬新なアイデアを生み出したものに贈られる賞です。

受賞コメント

このたび日本雪氷学会北信越支部から大沼賞をいただきました。学生時代から観測・実験技術だけでなく、雪山での生活やスキースキーの滑り方まで教えていただいた関係者の皆様のおかげと感謝しております。賞をいただいても現実にはよくわからないことがたくさん残されています。

最近では北海道ニセコ町近傍で風や雪の吹きだまりの観測をすることが多いですが、予測と観測結果が合わないことも多々あります。これからも、引き続きいろいろな方のご協力を得ながら研究を続けていきたいと思っております。

2021年度日本地震学会若手学術奨励賞 受賞

地震津波火山ネットワークセンター 久保 久彦

受賞対象研究：地震破壊過程の解明とデータ駆動型研究による地震動モデルの高度化



地震津波火山ネットワークセンターの久保久彦主任研究員が、2021年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞しました。この賞は、すぐれた研究により地震学の分野で特に顕著な業績をあげた若手研究者に贈られます。久保久彦主任研究員の業績が優れていると認められ、その将来性が期待されるとして、今回の受賞に至りました。

受賞コメント

この度は栄誉ある賞をいただき大変光栄に思います。これまでご指導、ご支援いただいた学生時代からの先生方、防災科研の皆様、共同研究者の皆様、関係の皆様にご心から御礼申し上げます。

これまでの研究生生活を振り返ると、強震動（地震による地面の強い揺れ）をはじめとする観測データへの強い好奇心が根幹にありました。これからもデータへの好奇心を忘れずに、地震学の発展および地震をはじめとする自然災害の軽減に貢献できるような研究を進めていく所存ですので、皆様の変わりぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和3年度土木学会技術開発賞 共同研究者とともに受賞

地震津波火山ネットワークセンター 青井 真

技術開発件名：新幹線における海底地震計を用いた早期地震検知の開発・実装



地震津波火山ネットワークセンターの青井真センター長が、共同研究者とともに令和3年度土木学会技術開発賞を受賞しました。本事業では、東北地方太平洋沖地震のように海域で発生する地震をより早く検知して、新幹線をより早く減速・停止させるために、早期検知システムに近年太平洋沖に整備された海底地震計（S-net）を利用する方法などを開発しました。本技術はJR東日本の東北・上越新幹線の新幹線早期地震検知システムに実装され、この方法による新幹線の緊急停止が実施されております。本技術は、

地震時の新幹線の地震安全を向上しただけでなく、在来線や他の交通機関などでの活用が期待され、受賞に至りました。

防災科研と山梨県が協定を締結

防災科研と山梨県は「富士山火山防災対策等の推進に向けた火山研究職員等の協力に関する協定」を8月29日に締結しました。緊急時に火山観測網データなどから火山活動を正しく分析し、適切な避難対策に反映するよう、体制を構築します。平時には、緊急時の応援態勢の確認や効果的な火山防災対策を議論する連絡会を開催し、火山研究職員の交流を行います。また、大規模火山災害の軽減に向け、地方自治体・研究機関・研究者からなる連携体制の構築も進めます。火山噴火の防災対策に関して防災科研が地方自治体と連携・協力協定を結ぶのは、今回が初めてです。山梨県は産業技術総合研究所と同様の連携・協力協定を同日付で締結しました。



協定締結の様子。防災科研の林春男理事長(右)と山梨県の長崎幸太郎知事(左)

京都府立盲学校で「防災科学教室」を開催

防災科研とベルマーク教育助成財団が共催する「防災科学教室」を7月12日に京都府立盲学校の小学部と中学部で実施しました。9人の児童生徒が参加、小中学生合同でDr.ナダレンジャーの科学実験を楽しく学んだあと、中学生には災害過程研究部門の松川杏寧特別研究員が「災害を知って、災害にそなえよう! -安心防災帳を使ったそなえの自覚-」と題して講義をしました。Dr.ナダレンジャーの科学実験は、定番メニューを盲学校向けにアレンジ。「突風マシン(空気砲)」の実験では、一人ひとりに風を当て、風の威力を感じてもらいました。さらに子どもたちが触って確認できるように、ペットボトルと風船で作ったミニ突風マシンを全員にプレゼント。「小さい風を起すだけなら楽しいおもちゃだけれど、大きい風になったら怖い災害になる」というナダレンジャーの説明に深く納得したようでした。



4時間目の松川特別研究員の講義



松川特別研究員の講義では、巻き尺を脚にあてて浸水深と行動の関係を実感してもらいました。

東京理科大学のデータサイエンスセミナーで講演

総合防災情報センターの臼田裕一郎センター長が7月13日に東京理科大学主催のデータサイエンスセミナーで学生に講演しました。防災において今や不可欠となっているデータサイエンス。防災情報を個人・組織間で共有し、状況認識を統一することの重要性を説明するとともに、国や自治体の災害対応において情報のパイプラインとして使われている「SIP4D(基盤的防災情報流通ネットワーク)」や、「CPS4D(防災版サイバーフィジカルシステム)」の開発コンセプトや仕組みを解説しました。

職員向けドローン研修会を開催

防災科研の職員向けドローン研修会が開催され、30人以上が参加しました。講師は、マルチハザードリスク評価研究部門の内山庄一郎特別研究員と新里遼平特別技術員です。航空法などの関連法規や機体の構造などを学ぶ座学と、実際に飛行させる実技の計10回のコースで、防災科研発の災害対応ドローンソリューション「GEORIS」の教育プログラムに基づいています。ドローンはさまざまな分野で活用が期待されており、研修会には地震、火山、水・土砂、雪氷など各部門の研究系職員のほか、研究を支える事務系職員も多く参加しました。



親子で気象レポート! 夏休み「ふるリポ!親子サポーター企画」開催報告

夏休み「ふるリポ!親子サポーター企画」(ふるリポ!:防災科研が運用する気象レポートシステム)を実施しました。7月30日に任命式、8月27日に終了式を開催。約100名の小学生サポーターからのレポートは期間中合計6,666回におよび、様々な気象のレポートや気温観測に精力的に取り組んでくれました。参加者からは「日々の天気の変化を親子で楽しく観察することができた」「これからは空の観察を続けたい」などの声が聞かれました。「ふるリポ!」に届いた気象レポートは防災研究に活用されます。皆さんもぜひお住まいの地域の空の様子や天気をレポートしてください。 <https://fururipo.bosai.go.jp/fururipo/>



任命式に参加した小学生サポーター



つくばちびっ子博士2022開催報告

防災科研では、茨城県つくば市・つくば市教育委員会が主催する「つくばちびっ子博士2022」に参画し、計4日間で約560人の方にご参加いただきました。

■Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室

Dr.ナダレンジャーがペットボトルなどの身近なものを使って自然災害をミニチュアで再現する実験教室を実施しました。

■身近な飲み物で噴火実験!

火山防災研究部門・火山研究推進センターの研究者による、炭酸飲料とお菓子をういた火山噴火実験を実施しました。身近なもので出来る火山噴火に子どもたちも興味津々でした。

■豪雨体験

1時間あたり300mmの雨を降らせる豪雨体験を大型降雨実験施設で開催しました。子どもたちは、大雨によって視界が悪くなると近くのものでも見えにくくなることなどに驚いた様子でした。

■耐震王に俺はなる!! ストローで地震に強いお家模型を作り、揺れから守れ!

地震減災実験研究部門の研究者と一緒に、何本ものストローを組み合わせてオリジナルの家の模型をつくる工作を実施しました。子どもたちは自分たちがつくった模型の家を人工的に揺らす機械にのせて、どの程度の揺れに耐えられるかを確認しました。また、VRを使い、実際に家の中で地震が発生したときの揺れを体験する企画も同時開催しました。



防災科研ニュース 2022 No.218

2022年9月30日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail: k-news@bosai.go.jp

■発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部 広報・ブランディング推進課
防災科研ニュース係 TEL.029-863-7788 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます (<https://www.bosai.go.jp/>)

ISSN 2758-1195



植物油インキを使用しています